

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372201109
法人名	株式会社 サンケイ
事業所名	グループホーム チアフル音明かり
訪問調査日	平成 19年 12月 20日
評価確定日	平成 20年 2月 5日
評価機関名	特定非営利法人活動「サークル・福寿草」

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372201109
法人名	株式会社 サンケイ
事業所名	グループホーム チアフル音明かり
所在地	愛知県一宮市北方町曾根村裏西46-1 (電話) 0586-86-8512

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原町1丁目24番地 COMBi本陣 N203		
訪問調査日	2007年12月20日	評価確定日	平成20年2月5日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 4.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	管理費12,000円、水光熱費12,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(6か月以内の退去時 1/2返却)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	67歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	一宮市立木曾川市民病院、五藤医院、一宮西病院、松岡病院、丸井歯科病院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、田園風景が広がる閑静な生活環境の中にあり、建物廻りには季節の花が植えられ、庭には柿、みかん等の果樹と多数の野菜が育てられている。法人の理念「生きていくってすてき」と思える家に！を根幹におき、運営者は、自分らしき誇りを保ち、自分でやれる喜びと達成感のある暮らしのサポートを念頭に置き運営している。利用者は日常的に散歩、喫茶モーニング、ランチ、買い物、遠足等外出する機会を多くし、生きがいや良い刺激になっている。また、行事も多彩で、特に夏祭り、運動会には力を入れ気分転換や楽しみに繋がっている。運営者は、職員の定着率、介護の質を高めるため、常勤職員の占率を高めると共に、社外研修を積極的に受講させている。職員はいずれも向上意欲が強く、個々上位資格受験に向けて取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、チームケアのための会議、市町村との関わりが主な改善課題であった。今回の評価でチームケアのための会議は、定期的に設け話し合いを行っている。市町村との関わりは、管理者が市役所担当者と書類提出等の機会を捉え、積極的に働きかけを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を全員に説明し、理解を得たうえで取り組んでいる。自己評価は全職員が全項目記入し、日頃の介護を見つめ直す良い機会となっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では活動報告、チアフルの課題等について、積極的に報告し話し合いを行っている。意見、要望については一つ一つ検討し改善している。出席者は家族、町内会長、老人会会長、地域包括支援センター、ホーム長、管理者、ケアマネ、職員等が参加している。利用者の楽しみである運動会、場所確保では申請するも教育委員会で断りがあったが、地域包括支援センターの努力で確保できた等運営会議が有効に活用されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情等の窓口は管理者に一本化されている。家族等の面会時には積極的に声を掛け、相談し易い雰囲気づくりをしている。家族会、運営推進会議等で出された意見、要望、苦情等は会議、ミーティング等で検討し、運営に反映させるよう努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、文化祭、輪ぐり、左儀長、児童館訪問等の行事には、利用者と共に積極的に参加している。地域との連携でボランティアの受け入れも多数あり、利用者の楽しみになっている。利用者がいなくなる事が年に数回発生するが、家族、警察、地域の方々の連携がうまくいき、いずれも無事帰宅できている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に「生きているってすてき」と思える家に、自分らしく誇りを保ち、自分でやれる喜びと達成感のある暮らしのサポートを行い、家族と地域との連携を大切にす、という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は「生きているってすてき」と思える家実現のため日々、楽しく、明るく、やりたい事がやれる様に努力している。ミーティングの場で繰り返し理解を深め、一人ひとりが意識を持つように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入しており、文化祭、輪くぐり、左儀長、児童館訪問等の行事には利用者と共に参加して地元の人々と積極的に交流するよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、自らのケアを振り返り、見つめ直す良い機会として前向きに捉えることで、質の向上に繋げている。評価の意義は全職員に理解されており、評価結果は内容も周知し改善に役立っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回開催され活動状況の報告、各課題について話し合いを行っている。意見、要望については一つひとつ改善に向け取り組んでいる。出席者は家族、町内会長、老人会会長、地域包括支援センター等地域の代表が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が主に市役所の担当者と書類提出等の機会をみつけ意見交換を行っている。施設部会等においても定期的に意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の面会時に利用者の生活状況、健康状態を報告している。緊急時は直接家族等に電話で詳細に報告している。毎月「チアフル便り」を発行し、近況報告、行事予定等で暮らしぶりを報告している。金銭管理は毎月の支出を報告し、確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、職員は必ず声を掛け、相談しやすい雰囲気づくりをしている。家族会、運営推進会議等で出された意見、要望、苦情等は朝礼やミーティングで話し合い、日々ケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職等やむを得ない場合、時期や引継ぎで最善の努力をしている。職員の写真、氏名を掲示し馴染みの関係が早期に築けるようにしている。運営者は離職率が低い常勤職員の割合を高めるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修、講習は希望者が優先的に受講でき、研修後はレポート提出と会議で報告させ、全職員に情報を共有できるように取り組んでいる。職員は向上意欲が強く個々の上位資格受験合格に向けて取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は運営者の親密施設ならびにグループホーム同士の交流を積極的に行っており、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の様子や家族の意見を十分に聞き、利用の判断にしている。利用後も家族に協力してもらおうと共に職員間での情報の共有、申し送り等、極め細かく把握して早期に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩である、という考えを職員が共有しており、料理、手芸等を通じて利用者から教えてもらう場面が多い。生活歴を把握して得意分野に力を発揮してもらうような場面を工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で本人の意向を把握している。意思疎通が困難な方は家族等から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とのコミュニケーションから思いをしっかりと傾聴して意向を汲んで関わっている。ミーティングの際は職員の意見交換がなされ、個々の状態を把握しつつ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々の介護計画も3か月に1回ケアマネジャーと共に見直しがなされ、現状に即した計画が立てられている。	○	利用者の変化等はインクの色を変える等、見直しによる修正が明確にされる事が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営法人が他の場所で開設した小規模多機能事業所の利用者との交流がある。ホームは、利用者の急変時や重度化など、一人ひとりの要求に応じていくように取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院は家族が行い、不可能な時は職員が代行している。嘱託医による月1回の往診等、適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では医療、看護面等の関係上、看取りは行っていない。重度化の場合は管理者相談の上、家族やかかりつけ医師の意見を参考に入院等の支援を行っている。	○	入居期間の長期化に伴い起こってくる重度化においては、今後も十分に話し合いがなされ、書面により同意を得られることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は個々のプライバシーが守られており、記録等においても職員に周知徹底がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、入浴、好きなテレビ番組等、利用者、一人ひとりのペースに合わせ出来る限り希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから後片付けまで、職員と共に一人ひとりの得意分野での活躍や食事中も和やかな会話をしながら食事している。介護が必要な利用者にはさりげなく隣に座りフォローしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定期入浴の他希望があれば随時シャワー浴等で対応して、入浴時には安全の見守りがなされている。	○	ADLが低下した場合、浴槽が深いため入浴介助が大変になると思われるので、福祉用具等、検討される事が望ましい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームには、手芸、習字、作品作り等にもボランティアが来訪しており、それぞれが個性を出しながらの参加が見られる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は戸外への散歩や週1回の喫茶店のモーニング、月1回のランチ、遠足等日々変化ある生活や晩酌等、個々の思いを大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は日中開錠が基本となっているが、職員の人数により施錠することもまれにある。ミーティング等で拘束の勉強会は絶えず行われ周知徹底されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは避難訓練を定期的に2回以上行ない、うち1回は消防、地域の方々と連携を図り行っている。最低限の食糧、水の備蓄もしている。	○	夜間勤務者が一人となり、不安軽減のため今後も引き続き、夜間の避難訓練と地域住民の協力体制を構築される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランスは一人ひとり、とろみを付ける等状態に応じて支援している。毎日の水分補給、食事等の摂取状況も記録を取り把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓が取り付けられてあり、そこからから入る明るい日差しが利用者一人ひとりの顔を照らし、職員の細やかな関わりにより明るく笑顔の空間となるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持込や個々の好みを優先してカーテン、仏壇や写真等、馴染みの物の中で居心地の良い空間が作られている。		